

令和3年産 コメ通信

第7号（令和3年7月16日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話0186-62-1835）

生育進んでいます！適期追肥にご注意を！！

1 気象経過と生育状況

【気象経過】

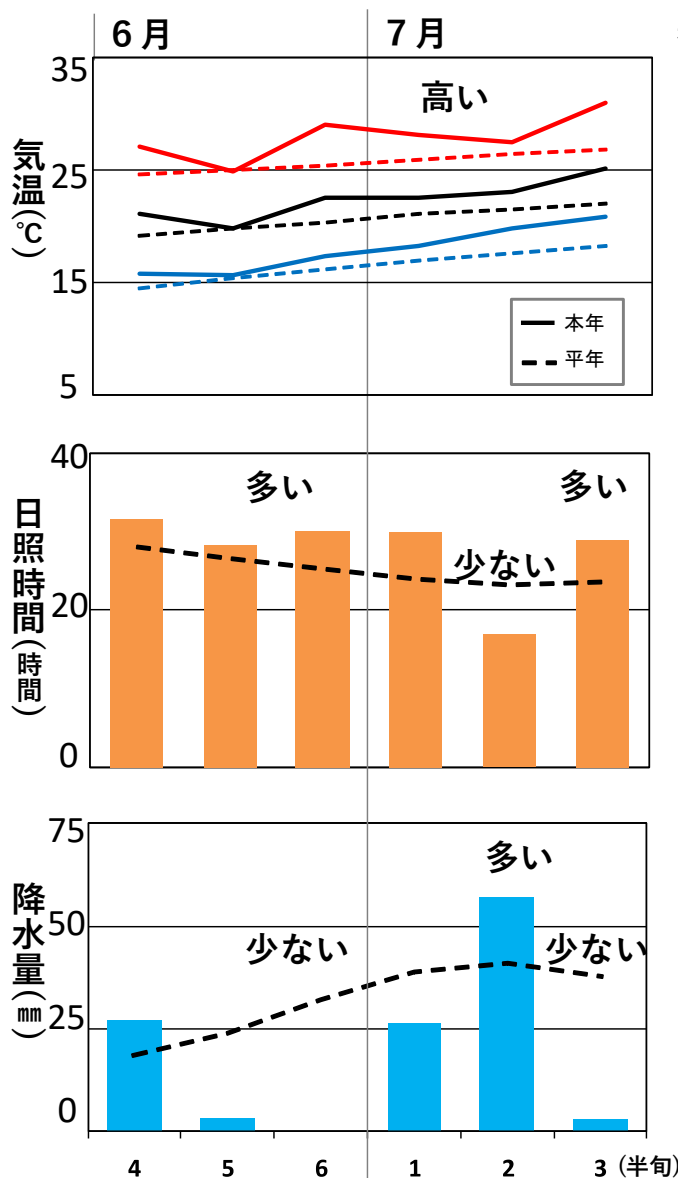


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

【生育状況】

表1 定点調査結果（7月15日・あきたこまち）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色
本年	67.1	556	11.8	40.5
平年	62.8	580	11.2	40.7
前年	64.9	575	11.1	42.0
平年比	107%	96%	+0.6	100%
前年比	103%	97%	+0.7	96%

※平年は過去10か年の平均値

※葉色はSPAD-502で測定した値

表2 減数分裂期・出穂期の予測

田植日	減数分裂期	出穂期
5/15	7/21(7/25)	7/29(8/3)
5/20	7/24(7/28)	8/1(8/5)
5/25	7/27(7/30)	8/4(8/7)
5/30	7/29(8/2)	8/6(8/10)

（アメダス鷹巣）○内は平年値

※中苗。7月16日以降は平年値で計算。

※減数分裂期：葉耳間長が±0の茎が多く見られる時期（出穂期の10日前頃）

○7月15日現在の管内水稻定点調査ほ（9地点、品種あきたこまち）の生育を平年と比べると、葉色は並でしたが、草丈がやや長く、葉数が多く、茎数はやや少なくなっていました。好天が続き、生育が早まっているためと考えられます。

○管内の水稻は、幼穂形成期に達しているほ場が多く、生育が平年より早くなっています。日平均気温から算出した出穂期予測は、中苗の5月20日植えて8月1日頃（平年値で8月5日）と平年より早まる予測となっていることから、各ほ場の生育状況を確認してください。

2 主要病害虫の防除対策

▼飼料用米も主食用米と同様に、病害虫防除を行ってください▼

【いもち病】

- OBLASTAM（感染好適日予想）では、7月6日から13日にかけて、管内各地で感染好適日が出ています。予防剤の効果が切れる時期なので、ほ場の見回りを徹底してください。
- 発病を確認した場合は、ただちに薬剤（ブラシン、ノンブラス等）を散布してください。その後は、必要に応じてビーム剤等を追加散布します。
- 7月下旬以降上位葉で葉いもちの発生がある場合、穂いもち防除を徹底し、薬剤はコラトップ粒剤5（出穂15～7日前）か、ビームもしくはラブサイドの茎葉散布（出穂直前と穂揃期）により実施します。

【斑点米カメムシ類】

- 出穂の10日前までは畦畔・農道や法面・雑草地等の草刈りを徹底し、増殖源をなくしましょう。
- 本年は水田内の雑草発生が多くなっています。ノビエやホタルイなどのカヤツリグサ科雑草が出穂すると、カメムシ類が好んで飛来してきます。ほ場内に雑草がある場合は、除草剤の使用時期に注意して除草を徹底してください。

3 追肥判断（減数分裂期）

- 本年は生育の進みが早く、またほ場間差があるため、注意して状況を観察し、減数分裂期の追肥を行ってください。
- 幼穂形成期以降、極端に葉色が低下すると、一穂粒数の減少や有効茎歩合の低下を招きます。生育量が不足している場合や葉色が低下している場合は、減数分裂期まで待たずに窒素成分で1.5kg/10aの追肥を行います。
- 減数分裂期に葉色が濃く草丈が75cm以上のほ場では、倒伏する可能性があるため、追肥を控え、倒伏軽減剤の使用を検討します。

4 水管理

- 仙台管区气象台発表の1か月予報（7月15日発表）によると、向こう1か月の東北地方日本海側の天気は、気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されています。気象状況に応じて、適切な水管理を行ってください。
- フェーン現象の際は、湛水し根の活力を維持する水管理を行います。
- また、出穂前12日頃を最大危険期として、減数分裂期から穂ばらみ期にかけて、日平均気温20℃（最低気温17℃）以下の日が続く、日照が少ない場合には、障害不稔が発生するおそれがありますので、深水管理を実施します。
- カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、カドミウムの吸収を抑えるために、出穂期の前後各3週間は水田に常時水を張り、土壌表面を空気に触れさせない湛水管理を必ず継続してください。湛水管理をしていないほ場はただちに湛水管理を行ってください。用水不足が懸念される場合は、地域で節水管理に努め、順番を申し合わせるなど計画的な用水の活用に努めます。

問い合わせはJA、または農業振興普及課まで
HPは「北秋田 コメ通信」で検索 QRコードからも→
～次回発行は7月下旬予定～

